

# 麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医保健看護学科

職階 准教授

氏名 大仲賢二

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

## 1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

獣医保健看護学科に所属し、感染症学の教員として動物感染症学（特に細菌）を中心に教育活動を行っている、また兼務として食品生命科学科の食の安全分野の教員として食品衛生学（特に微生物学系）の教育活動も行っている。主たる授業科目は動物感染症学Ⅰ、食品衛生学、病原微生物学であり、加えていくつかの講義・演習・実習の分担を行っている。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
動物形態機能学・臨床検査学実習Ⅱ	獣医保健看護学科	必修	2	74
動物臨床検査学	獣医保健看護学科	必修	2	74
動物看護学概論	獣医保健看護学科	必修	1	82
キャリアデザイン基礎	獣医保健看護学科	必修	1	82
動物形態機能学・臨床検査学実習Ⅰ	獣医保健看護学科	必修	1	81
動物感染症学Ⅰ（細菌・真菌）	獣医保健看護学科	必修	1	85
食品衛生学	動物応用科学科	選択	4	59
病原微生物学	食品生命科学科	必修	2	57
獣医微生物学特論	獣医学専攻	選択	1	1

## 2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

教育のあるべき目標は、まず社会ルールを知り、守ることと考える。その前提のもと新たな知識や技術を「知ること」に喜びを感じ、新たに知り得た知識や技術を社会に応用することのできる人財を育てることと考える。近年のITC技術の急速な進展により様々な情報が、その真偽、優劣に関係なく瞬時に大量に得ることができるようになった。学生にはこの情報過多の中でどの情報が必要か、どれが正しい情報なのかを判断し整理する能力を持って欲しいと考えている。教員として、新たな知識や技術を知ることには喜びを感じる姿を示し、迷ったときには本学の学生である間のみならず卒業してからも気軽に訪れ意見交換や、人と人との中継ぎの場を提供できるようにしたいと考えている。

### 3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

- ・社会ルールを知り守る授業を行う

授業に際して、ルールを予め提示しルールに基づいた授業を行っている。具体的には、授業開始時間の厳守、提出物の提出方法と提出時間の厳守を行い、決められたことを守ることで、集団生活で重要な、「約束を守る」ことを認識することのできる授業運営を行っている。

- ・学習者が授業にしっかりと参加する

学習者が主体的に問に対して調べ、調べた内容を発表する機会が多い授業を行っている。具体的には講義中で新たに出てくる言葉の定義をこちらから学習者に問いかけ、参考書やスマートフォン等で検索後発表してもらっている。自ら調べて発表するように授業を設計し調べることで、色々なことを自分で調べれば理解できるという自己肯定力をつけることのできるように授業を企画している。発表を受けてその内容についてこちらからコメントを加えてさらに情報の真偽や知識を深められるように心がけている。

- ・情報の整理ができるような授業を行う

こちらの問いに対して発表の際に、情報源と情報の内容を伝えてもらい、色々な情報の中からどのような情報源が有用であるか併せて解説を行うように授業を行っている。

#### (1) アクティブ・ラーニングについての取組

無

講義終了後に講義内容について総論的に書かれている資料を課題にして、何が書かれているかまとめてもらい、その中で何に興味を持ったかどうして興味を持ったかを今までの実生活に即して答えてもらい、読んで、まとめて、興味を持ったことを自己の経験に即して答えるという形で学習者が主体的に「まとめる、考える」を行えるようにしている。

#### (2) ICTの教育活用

有

学習支援システム「AzaMoodle」を利用して講義前に講義資料を配信し、講義前に重要と思われる語句、事項について空欄にしておき、講義前に論文や有用なWEBサイトで調べてから授業に参加するようにしている。

## 4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

### (1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

講義内容について、学習者が自分とは別の世界で起こっていることで自分とは無関係なことを考えられることのないように、実際に自分の身の回りで起きていて、しかも今までの生活の中で学習者自身も経験していることであると意識してもらえるように実例を交えて、自分事ということで身近に起こっていることとして考えてもらえるように授業することを意識して行った。

### (2) 学生の理解度の把握

A

講義した内容について関連のある資料を読んで設問に答える形の課題を設定し理解力のチェックを行っている。課題について理解できていない等の学習者に対して、複数回呼び出し等を含めて対面での質問の時間を設定し、課題に対する取り組みとその意味を説明して、何を書いてよいかわからない学習者に具体的にどのように書いたら良いのかを指導して、書けるようになるまで対応を行った。

### (3) 学生の自学自習を促す工夫

A

課題の設定を講義内容に沿った形でフィールドワークを伴う題材（例えば食品衛生学では、商店で実際に販売しているものを題材にした）を選び、学習者が学んでいるものが実生活で活かされていることを体験できるようにすることで知る喜びを感じることができるようになっている。また、課題については必ず提出するように促し、質問をする時間を講義時間外にも設定したことで昨年度よりも提出率が向上した。

### (4) 学生とのコミュニケーション

A

学習者の望む方法（メールや対面対応など）で対応するようにした。対応で心掛けたことは、メール対応の場合は、次の日までには必ず返信を行うようにして学習者の不安を取り除くように努力した。また、メール対応で意思の疎通が図れない場合には対面で説明する機会を設け、学習意欲を持続できるようにした。課題の提出が思わしくない学生に対しては、逐次呼び出し等を行うことで課題の提出率の向上を図った。

### (5) 双方向授業への工夫

A

学習者に対して考えてほしい内容については、こちらから学生に考えてほしい事象を提示し、その場で学生に調べて答えてもらい、補足解説をするようにした。また、メールでの質問に対しては次の日までには必ず返信を行い、メールによる意思の疎通が難しい時は、対面で説明する機会を設け、学習者が理解しやすい説明をするよう心掛けた。

### (6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

該当なし

## 5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

### (1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

理解しにくい点について、色々な角度から平易な言葉で説明するようにしている。

### (2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

講義によって学習者に対して講義中に質問をしてその場で答えさせる方法では、緊張により講義に集中できないことがあるということから、学習中に質問は投げかけるが、その場で答えることを求めないようにした。この結果、以前よりも講義時間以外に質問に来る学生が増えた。

### (3) (2)を踏まえた次年度の取組

わからないことが何かを説明できない学習者が増えていることから、可能な限り講義時間外に対面で質問等を受けるだけでなく、うまく説明できないことから質問に来れない学習者に対してこちらからのアプローチを試みようと思っている。

## 6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

### (1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

学習者の多くは、今学習していることが自分の生活の中で起こっていることではなく、別の世界での出来事と思っていることが多いので、できるだけ実生活に即した形で学習できるように授業を行っている。また今後は学習者の多くは、ほとんどは予習をすることなく講義に参加をしていることから、予習をするための教材づくりを考えてみたいと思っている。

### (2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

学習者から特段の不満はなく、学習していることが実際に自分の生活でしていることと関連しているのだという認識を、講義中の質問を通して感じられる。

## 7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

授業改善につながると考える FD 研修会はオンデマンドを含めて参加するようにしている。研修をとおして他大学や他の教員が指導力向上のために行っている取り組みを積極的に自分の講義に取り入れるよう努力している。

## 8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

短期的には、愛玩動物看看護師の国家試験の全員合格を目指す、引き続き食品衛生における最新の情報の把握に努め、得られた情報を交えた教育を行うことで、今、学んでいることが社会的にどのように重要なのか知り、今後の学修や卒業後の社会活動にどのように結びつくかを理解させた上で知る喜びの重要性を説きたい。

長期的には、新たに知り得た知識や技術を社会に応用でき、「良い・悪い」という結果だけを求めるのではなく、良い理由は何？悪い理由は何？と「何」が考えられる人財の育成を展開していきたい。

## 9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

シラバス、授業アンケート、学習支援システム「AzaMoodle」、FD（リアルタイム、オンデマンドを含む）研修会の参加記録（受講後のアンケート提出）、授業で用いた配布資料、スライド資料および授業動画